

輸出事業計画

※申請者名 山田水産（株）、品目：サバ

1. 輸出における現状と課題

【現状】

当社は、昭和48年に大分県佐伯市で水産加工事業を開始し、宮崎県の加工場も併せて、需要の拡大する冷凍サバの安定した供給体制の構築を図っている。国内養殖向けなど、餌用として主に出荷を行っており、一部については食用としてアフリカや東南アジア等への輸出も行っている。

大分県加工場



宮崎県加工場



【課題】

- 漁業者の高齢化に伴う漁獲量の減少や、地球温暖化の影響による漁獲時期、魚種、漁獲量の変動に対応した原魚の確保体制の確立が必要。
- 漁村等での加工人材の確保が年々困難になってきているため、省力化に向けた加工施設における加工作業の自動化が重要。
- 輸出用の原魚は、解凍して食用として利用され、冷凍時点での品質をいかに良い状態にするかが重要なため、水揚げの鮮度を維持したまま、冷凍までの時間を短縮することが求められる。
- 缶詰用などの加工原魚の需要の高まりに伴い、サイズの選別について、選別重量の幅や精度の向上などのニーズが高まっている。
- 新型コロナウイルスの感染再拡大の影響を受けた船便欠航やコンテナ不足などの影響による輸送費の急激な高騰に対応する必要。

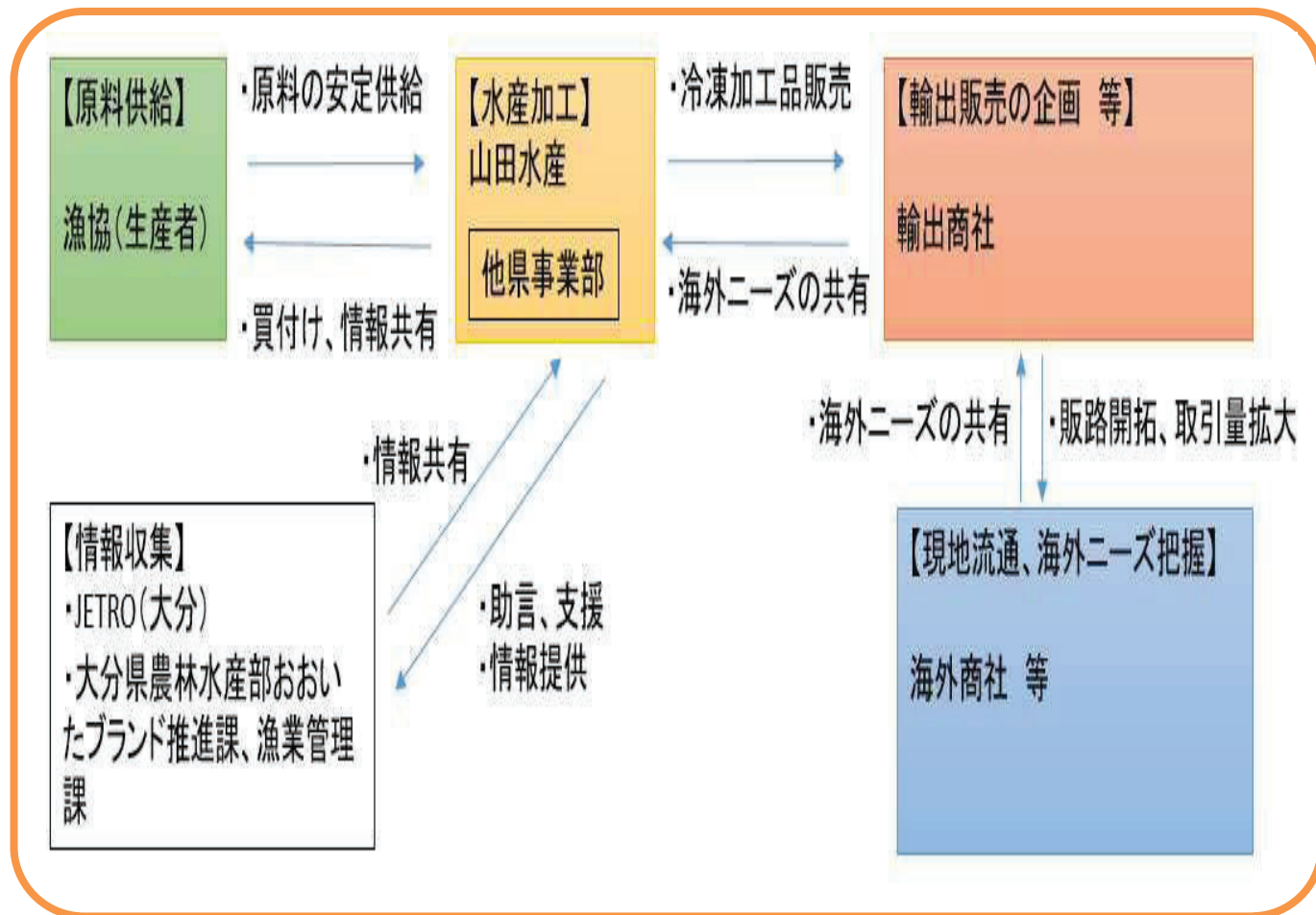
2. 輸出事業計画の取組内容

- 原魚確保については、地元漁業者が安心して漁ができるよう、当社は今後も全力で買付を行う。また、漁業者と情報共有し、より良い関係性を築き、取引深耕を図る。
- 冷凍・選別機能の向上や大ロットでの出荷等の輸出先国が求めるニーズに対応するため新加工場の整備に取組む。また、作業の自動化を図るため、オートメーション化に対応した機器の導入を進める。
- 加工コストの増加については、自動脱パン機（冷凍品の処理機）の導入により、作業効率の向上及び製造コストの削減に取り組み、製品単価をなるべく上げないように対応する。
- 販売を委託している輸出商社と連携し、商社が参加する展示会や商談会等において、弊社の冷凍サバブランドの海外現地PRを行う。
- 従来は運送業者へ製品の運搬を依頼したが、今後は当社トラックを活用し、輸送コスト削減に努める。

輸出事業計画

※申請者名 山田水産（株）、品目：サバ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和3年度）	目標（令和6年度）
輸 出 額	83,643千円	92,000千円
輸 出 量	907 t	1,000 t
輸出先国	ベトナム・タイ・ナイジェリア 等	